

17 Pseudoprogression における MGMT 発現の検討

棗田 学・小倉 良介・青木 洋
小林 勉・宇塚 岳夫*・藤井 幸彦
新潟大学脳研究所脳神経外科
県立がんセンター新潟病院脳神経外科*

【背景及び目的】 テモゾロミド (TMZ) 投与中の神経膠腫にある一定の割合で一過性の増大, 即ち pseudoprogression (psPD) を認めることが知られている. psPD では MGMT が発現していないことが多く, 予後良好であるとの報告がある. 今回, psPD と考えられた神経膠腫症例の MGMT 発現及び予後を検討した.

【対象と方法】 2006 年 1 月から 2010 年 12 月までの間, 初発或いは再発時に TMZ を投与し, 維持療法を 6 コース以上施行した WHO Grade 3, 4 の神経膠腫症例 65 例を対象とした. 造影 MRI 上, TMZ 開始 6 ヶ月以内に増大を示した症例を progression (PD) と, 増大が認められなかった症例を non-progression (non-PD) と定義した. PD は TMZ を継続して造影 MRI をフォローし, 増大傾向を示した症例は true progression (tPD) と, 縮小を認めた症例を pseudoprogression (psPD)

とした. MGMT の発現を免疫染色法で, progression free survival (PFS) 及び overall survival (OS) を Kaplan-Meier 法で評価した.

【結果】 65 例中 psPD は 8 例 (12%) であった. psPD は 8 例中 6 例 (75%) で陰性であった. 一方で tPD 17 例中 15 例 (88%) で MGMT 陽性であった. psPD, non-PD の PFS, OS とも, tPD と比べ有意に長かった (いずれも $p < 0.001$) psPD は症状の増悪が比較的軽微であり, 増大は局所で, TMZ 内服開始から 3 ヶ月以内に増大が認められた.

【考察】 psPD は 8 例中 6 例が MGMT 陰性で, 予後良好であった.

II. 特 別 講 演

脳腫瘍の動向と展開

熊本大学大学院生命科学研究部
脳神経外科学分野 教授

倉津 純一